

2018年(H30年)

12月

No. 324

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

ひとほ



社会福祉法人 ひとほ福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

気がついたら師走という感が強いのですが、今年も天災の在り様も、私たちを取り巻く社会の在り様も、多くの反省を強いられる出来事が頻発しました(そういえば、年末にはこういう反省をいつも促される年が続いているようにも思います...)

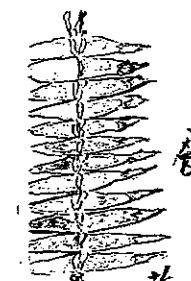
7月の豪雨災害は、ひとほにも記憶にない被害をもたらしましたが、地域住民をはじめ多くの方々の温かい御支援に涙しました。改めて危機に対する備えの重要性を認識しました。

社会に目を転ずれば、強制不妊手術事件、性的少数者に対する差別事件、中央官庁における障がい者雇用削減事件と、まさに事件としか言いようのない出来事が続出しています。一見法的制度が整ってきたかのように見えますが、実相は競争至上主義の中で、生きづらさを抱え込まざるを得ない状況が生活の中に染み込んできているように思います。

このような世相の中でも、知的な障がいのある人たちは必死に自分らしく生きようとしています。そして、その思いを共有するためにひとほを拠点として発信を続けています。

ひとほでは、知的な障がいのある人たちが発信する文化を自生文化と知っていますが、それは自分らしく生きるために自らが生み出す文化でもあります。実は誰にでも備わっている文化なのですが、競争至上の中で忘れ去り、上には卑屈、下には傲慢になり、フイツイ自らの自生文化を置き去りにしているのではないのでしょうか。

ひとほでは、これからもきららの人たちのつづきやきや問いかげにしっかりと耳を傾け、ゆたらかな文化の発信に力を注ぎます。これからも御支援御指導ください。(理事長 寺尾文尚)



調理するが
飾るだけに
中



あっぷ きらら旅行 10/19~10/20 (山口コース)

みんなとバスに乗り込み数分後、ふ〜んとくさい臭いが...
なんと! スタッフのズボンの中にカメラが紛れ込んでいた。無事カメラは脱出し「みなさん! ペットの持ち込みは禁止ですよ〜!」の掛け声と笑顔から旅は始まった。みんなとだからどこへ行っても楽しいのだが、中でもゆめ花博! お客さんがたくさん、私ほ人混みやアトラクションばかりに目を奪われていたか、一人のきららの仲間が立ち止まり遠くを見つめていた。何を見ているのかなと同じ方向を見ると、凄くきれいな海が広がっており、自身の視野の狭さを教えられた。

一つ一つの出来事の中で捉え方は様々な事を再確認し、海がキラキラ輝いていること、波の音、水が弾ける音、些細な事かもしれないが、幸せを感じる一時であった。(就労センターあっぷ 井上大輔)


(高知コース)

晴天に恵まれた高知の旅は、片道4時間の道のりがあって、いつものと違う景色に心が弾み、バス内のレクリエーションも盛り上がりまくる。

この日は岡田さんの誕生日。サプライズで宴会係がお菓子版ロシアンブレッドを企画。まずは岡田さんの誕生日をお祝いし、わくわくどきどきしながらお菓子を一斉に口の中へ。と、その時「わあ〜、辛い〜! 甘い〜!」な、なんと、わさび入りのガトーショコラが主役の岡田さんに的中。岡田さんは辛さと甘さで苦笑い。みんなは大爆笑!! 「皆さん、仲良くしてくださいね。」と照れながら挨拶をされました。岡田さんにとって嬉しい誕生日だったと思います。「すばらしい1年になりますように!」高知、最高の旅でした。(就労センターあっぷ 瀧野由美子)

「1日の始まり」

「おはよう!」「元気ないね」「化粧いいですね」など出勤後にいろいろ声をかけてくれる高伏さん。褒めてくれるときは大体お世辞か冗談です(笑)。時にはハイテンションで踊りながら「いしかわっ!いしかわっ!」と名前を連呼され、ついていけないことも…。「なんで朝からそのテンション…」と返しつつ、元気をもらい、朝の忙しさを一瞬忘れ、毎朝恒例のやりとりに没頭している自分があります。さ、!今日も頑張ろう! そう思える瞬間でもあります。さて、今日の高伏さんはどんなテンションで来るかな～?

 (就労センターあぷろ 石川未央)

「そ、と思っ合うこと」

つるの解体作業でのこと。手が止まっていた吉高さんに、「健さん、"つる" やりませう。」と声をかけると「ワシとや、やるけん、しゃーないよ。」と向井さんが答えます。2人は幼馴染で、受注室の名コンビです。受注作業を少し離れたテーブルでや、ていて、その仕事が終わる、つる解体作業にうつると固まってしまう向井さん。訳を尋ねると「さびしいんよ。」と。その様子を見ていた吉高さんは、そ、と同じ所に座、て作業を始めます。「調子が出んからたんよ。」と向井さんはし、くりきた様子。互いのことを思っ合う姿に、皆でほっこりしました。

 (ひとは工房 岡崎 梓)

「工屋から旅行に山口 1/2 ~ 1/3」

何年か前まで一泊旅行の常連であった彼が、近年は全く行かなくなった。家族、とりわけお母さんは参加してほしいと願っていた。毎年旅行の時期が来ると「行こうやあ」と言うのだが、頑として「行かない」と言う。さてさて何とかたらいぬかと思案する。今年は「私が一泊旅行に行きたいんよ。内藤さんと一緒に」と誘ってみた。すると彼の気持ちが変わり、思議と動いた。かくして一泊旅行に行く事になり、二人共、とても楽しい旅行であった事は言うまでもない。帰りのバスの中で「来年も一緒に旅行しよう」と内藤さんは言う。言ってくれた。

(ひとは工房 実戸文子)

「"なんかかんか"で」

「60歳まであと2年なんよ。こんなに長く仕事を働いたのは初めてよ。」と園部清道さんが話してくれました。その言葉を聞いて「ワシ、定年まで頑張らなくて勤めるよ!!」と、就職が決まった時に話をしてくれたことを思い出しました。

あれから何十年。真由美さんと結婚、市営住宅での生活など、いろいろなことがありました。決して順風満帆ではない道のりでしたが、「なんかかんか」でここまで来ることができました。

園部さんに今後の目標を聞くと「ハートは定年が無いらって。だから60歳とはいわず、80歳まで仕事を頑張るよ!」と。

園部さん、これからも健康に気を付けて頑張ってください!!

※文中に出てくる「なんかかんか」とは、園部さんの口癖です。
(相談支援事業所もやい 岡崎 慎治)

「生活力」

私がグループホームの的場邸の人達と関わるようになって6年目になります。過去と一緒に作った料理を自分達で作ったり、冷蔵庫の食材を見て野菜をしっかりと使った料理を考えられるようになったりと、スゴイ!と思うことが増えました。台風が近づくと飛ばされないよう対策をしたり、他の人が悩んでいるとアドバイスしたりと、日々の生活の中で身につけた力なんだとわかります。将来一人暮らしをしたい、新しい仕事に就きたいなどの目標を持っている的場邸の人達に、私も刺激を受けています。

(グループホーム ひとは長屋 関内 宣子)

「編集後記」

先日、私の住んでいるアパートの氷が止まった。ポンプの故障で、修理には数日かかるとのこと。急いでホームセンターへ行き、貯水タンクと飲み水を確保。修理期間中は夜間になると水が止まってしまうので、帰宅して水が出るうちにお風呂とトイレをすませ、タンクと湯船に水を貯めるという生活。3日後には元通りになったが、蛇口をひねると水が出る事のありがたさを身をもって体感した数日間となった。

(白井 けいこ)

「年末年始休暇のおしらせ」

ささき亭、ひとは食館
どちらも
12月28日(金)~
1月7日(月)
お休みします。